



平成 28 年 7 月 31 日

伊豆市議会第 1 委員会 視察研修復命書

1. 日 時 平成 28 年 7 月 26 日 (火) ~28 日 (木) 3 日間
2. 場 所 ○岩手県洋野町 ・防災対策について (東日本大震災被害者 0)
(町議会事務局・防災対策室)

○岩手県久慈市 ・議会報告会・かだつて会議について
(市議会事務局)

○岩手県一戸町 ・デマンド交通「いくべ号」について
(町議会事務局・まちづくり課・事業組合職員)

○岩手県盛岡市 ・盛岡ブランド推進事業について
(市議会事務局・都市戦略室)
3. 参加者 第 1 委員会委員 7 人 議会事務局杉山事務次長 計 8 人

4. 視察内容

① 東日本大震災犠牲者 0 だった防災対策について (岩手県洋野町)

洋野町は、青森県との県境、岩手県の最北東部に位置し、平成 18 年 1 町 1 村が合併し、面積 302 km²・人口 17,604 人として誕生した水産業と酪農業を中心とした町です。

平成 23 年 3 月 11 日発生 of 東日本大震災には、地震・津波による被害が大きかったものの、犠牲者は 0 であった。

その要因はいくつかあるが、ハード面で 20 数年かけて整備してきた TP12m 防潮堤が震災直前に一部を除いて完成されたこと。ソフト面で明治・昭和三陸大津波の経験から実践的で有効な避難訓練を重ねていたこと。

地理的条件として、津波到着までに 40 分程度の時間があった、過去の経験から海岸端が就業地、高台が住宅地のまちづくりであった。

自主消防団組織に定年制がなく、行政職員・議員等地域の中心的な活動をしている入団者が多く、普段から防災・火災・水防活動が町ぐるみで行われてきたことがあげられる。

伊豆市土肥地区では津波到達時間も早く、海岸端に居住地・観光地も多くあり、ハード・ソフト両面での効果的な取り組みが急務とされる。

② 議会報告会・かだつて会議について (岩手県久慈市)

久慈市は、岩手県のやや北東部に位置し、北上山地を背にした太平洋に面した面積 623 km²・人口 36,000 人の製造業やドラマ「あまちゃん」効果による観光業を中心として町であり、議会活動として議会基本条例を市民目線の前文方言 (じえじえじえ) としたり、タブレット議会・会期通年制・議会報告会・市民との交流を深めるための「かだつて会議」等ユニークな方法を取り入れ、開かれた議会・行政運営を目指している。

伊豆市においても今年度から「議会報告会」4回開催したが、市民参加等多くの反省点があり、参考にしたいものも多くありました。

③ デマンド交通「いくべ号」について（岩手県一戸町）

一戸町は、北上山地と奥羽山脈に囲まれた岩手県内陸北部に位置し、面積 300 km²・人口 13,000 人、林野率 62%の酪農を中心とした高原の町である。

少子高齢化が続き、冬場は雪深いことも影響し、買い物・医療等の交通弱者が増加し、数年かけてデマンド交通の協議を重ね、町・タクシー業者 3 社・バス業者 1 社にて事業組合を立ち上げ運行し、住民の利便性の向上と街中のにぎわい創出による活性化につなげた。

伊豆市においてもコンパクトタウン&ネットワーク構想の中で、山間地域と中心部を結ぶ各種弱者救済と行政コスト削減のために安定した交通機関として導入の検討をお願いしたい。

④ 盛岡ブランド推進事業について（岩手県盛岡市）

盛岡市は、北上盆地の中央部に位置し、面積 886 km²・人口 30 万人の岩手県の県庁所在地である。

県庁所在地の盛岡といえども人口減少・少子高齢化・地方分権の進展により地域間競争が激化する中、「訪れてみたい」・「暮らしてみたい」・「住み続けたい」と選ばれるまちになるため、有形・無形、ハード・ソフトを問わず盛岡らしさを掘り出し・育み・磨き上げ、魅力度の向上・愛着を持つ市民・来訪客の増加を成果としてまちの活性化に 10 年前から取り組んでいる。

特に、育む磨く事業として「盛岡を愛する心」からブランドによりプライドへ変わり笑顔でのおもてなしが市民全体に浸透・醸成していると感心しました。

伊豆市としても盛岡市に負けないだけの地域力・ブランド力はあると思うので、どう活かしていくか発信していくか市の命運をかけ、DMO 事業として推進すべきではないのか期待します。

暑い中での視察研修ではありましたが、伊豆市に置き換えて市民の利益、市の発展になる取り組みに対し、実現できてこそ意義のあることであり今後の事業推進に努力します。

以上、伊豆市議会・行政の取り組みに期待して、研修報告といたします。

伊豆市議会議長 杉山 誠 様

伊豆市議会第 1 委員会 山下 尚之 